

まえがき——
iii

第一章 万葉時代の柳——1

柳と楊の区別のしかた／春の歎びを詠う『万葉集』の柳／交通要路の佐保川岸の柳／春の平城京大路を彩る柳／日本に四〇種自生する柳の種類／梅柳の盛り期は佐保で遊ぶ／強い生命力を頂く青柳かずら／穀靈こくれいの加護を祈り水口に柳を挿す／大陸寒冷化下で押し出された稻作農民と柳／神の天下る柳と初期天皇家の系譜／宴に赴く正装飾りの柳かずら／实物のつくりもの蘷から造物の挿頭かさしへ／平城京を舞い飛ぶ柳絮／奈良の都の庭園を彩る柳

第二章 平安時代の柳——39

鳥瞰した平安京の春景色／平安京朱雀大路の玉露輝く柳／里も国も富ます門前の柳／神泉苑を巡る柳／平安京郊外山崎の柳／『土佐日記』にある山崎の柳／『源氏物語』の柳／柳眉と蛾眉の美人／中国美人王昭君の柳眉／優雅な消息と柳の折枝／賭物の賞品は柳枝／弓矢の競技と柳葉／送別の餞に柳枝を贈る

第三章 鎌倉・室町時代の柳——75

『梁塵秘抄』の庶民の柳／旅人を癒す遊行柳／平野を行く旅人の日印柳／『夫木和歌抄』の柳／蹴鞠の懸にされる柳／家にありたき風情ある柳／然るべき人の門前の柳／日本庭園の伝統をつくる禅寺の柳／禅僧への公案と柳／禅僧悟達の表現「柳は緑花は紅」／乱れ揉まれる『閑吟集』の柳／正月七日は柳を立てる／柳と桃花をいけた春景色

第四章 伝承される柳の話と歌——113

『本朝文粹』柳が松に変わるという／人を蛇に変える柳／人間に変身する柳の精／人の身代わりとなる柳／柳の下の化け物と幽霊／柳の下に眠る財宝／三十三間堂柳の棟木話／柳に関する俗信／柳のことわざ／江戸期庶民が唄う柳の歌／京島原は出口の

柳／江戸吉原の見返り柳／江戸期流行歌謡集の柳／二つの衣掛け柳伝説

第五章 稲は柳に生ず——¹⁴⁹

稻作可能な湿地は柳の生育地／古代政権は水稻のみ評価／種糲の蒔付けと青柳の呪力／田神の依代柳を立てた水口祭／中信地方の苗代に立てる柳／南信地方の苗代に立てる柳／『農業全書』の稻作と柳／「農事図」に描かれた柳／百姓著『農業図絵』と柳／田植えと柳／田植歌が唄う柳／稻生育期の水の必要性と雨乞／稻作に必須の河川と柳／河川の治水と柳／荒廃山地の修復と柳

第六章 柳から生まれるもの——¹⁹¹

柳箱（筥）は奈良時代から調度品に／箱の蓋も柳筥という／杞柳細工物を生み出す豊岡／実用性高い保存容器の柳行李／柳行李製作の発展と衰退／柳枝を歯磨きに使う房楊枝／房楊枝の種類／楊枝売りの柳屋に美女あり／祝い膳に使う柳箸／酒と関わり深い柳樽／柳の道具・調理具や家具等／柳でつくる弓と矢／民間療法の柳の薬／柳の薬用部分および薬用効果／『中藥大辭典』の柳の薬／柳の成分からアスピリン／柳の木炭は黒色火薬原料

第七章 近世の江戸と京の柳——229

江戸名所柳の井／植えられた柳原堤の柳／墨田堤へ柳を植える／梅若丸と柳／広重描く錦絵の柳／京の高瀬川畔の柳／名水の柳水／石川雅望の柳贊歌／小野道風と柳／謡曲に謡われる柳／謡曲の遊行柳／美女の髪と枝垂れ柳の枝／漢詩に詠われる柳／春景色の漢詩の柳／柳は花より風情ありの俳論／蕪村の柳の句／『農業全書』の柳の効用

第八章 近現代の柳——271

銀座の柳のはじまり／復活した銀座の柳／荷風の見た東京の柳／昭和初期の新潟の柳／京都市内の柳並木／室戸台風被害と現在の京都の柳／わが国の街路樹と柳／日本街路樹一〇〇景と柳／倉敷と脇町の柳／北上川と千曲川の柳／与謝野晶子の各地の歌と柳／句歌の柳のありどころ／子供たちが唄つた柳の歌